

## DXによる持続的社会的の実現～コロナの先に

Foreword: Accelerating toward Sustainable Societies by DX ~ Beyond Corona Pandemic



コニカミノルタ株式会社  
取締役 常務執行役 技術担当

内田 雅文 Masafumi UCHIDA

Director  
Senior Executive Officer Responsible for Technologies  
KONICA MINOLTA, INC.

新型コロナウイルス感染症で影響を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。また渦中においても医療等、社会に不可欠なサービスを高い使命感で提供し続ける皆様に感謝申し上げます。

社会や経済が大きな打撃を受けている状況ではありますが、一方で2020年9月に経済産業省が発表した“人材版伊藤レポート”にあるように、今は「新型コロナウイルス感染症という想定外のショックにより、解決すべき課題への対応が社会全体で組織や個人のレベルで加速されたに過ぎない」とも考えられます。そして「未来に向けて、われわれは問題を直視し、変革を起こす好機とすべき」時と捉え、私たちは社会、経済の回復に臨むべきでしょう。その先には持続的社会的の実現という課題も控えています。

今後、世界で物流や製造の無人化・自動化は加速し、働き方でもリモートワーク・ペーパーレスが進んでいきます。また先進国が直面する少子高齢化による労働力不足の中でも、医療や介護には一人ひとりの健康と生活の質の維持、更には改善に貢献するサービスが求められるでしょう。

これらの潮流に対し、当社も総力を挙げDXにより自社を変革し、持続的な社会の実現に貢献する意思を示すべく中期経営戦略「DX2022」を掲げました。

当社は祖業の写真用フィルムやカメラに始まり、現在までX線画像診断、計測機器、複合機など一貫して人々の「みたい」に応えてきました。「DX2022」では「みたい」に応えるDNAを顧客と共に発展させるべく、R&D戦略として3つの基本方針を立てました。

一つ目は、画像IoT技術の強化により、中長期の成長を牽引するDX事業を育成する事です。データビジネスのキーとなるインプットシステム（データの入手技術をシステム化したもの）を強化し、得られたデータをAIで解析することで「みせる」を通じた顧客価値を提供します。これらを実現するために、画像IoTのオープンプラットフォームを“FORXAI”として2020年11月に発表しました。当社の強みであるエッジデバイスやAIだけでなく、顧客・パートナー保有の技術も自由に組み合わ

せる事が可能です。この機能と環境に参画頂くことで“FORXAI”は顧客ニーズと共に進化し、当社DX事業の礎となります。

二つ目は、材料、微細加工、光学、画像のコア技術をAIやマテリアルズインフォマティクスといったデジタル技術で再構築し、お客様の課題を解決するための新たなソリューションとして提供することです。例えば製造業のお客様では材料処方、部品加工、部品組立においては匠の技や経験に頼る部分があるため、解析に必要なデータが取得できない場合があります。そこで当社が有するインプットシステム、材料分析技術、製造現場のドメインナレッジを組み合わせることでお客様の製造工程で有効なデジタルデータを取得します。そしてAIを活用して帰納法的に相関モデルを作成・解析して製造工程の課題を解決すると同時に、演繹的に理論モデルを構築することでソリューションの適用範囲の拡大や、更なる価値創出を目指します。

三つ目は、全社のDXを推進する開発体制を完成する事です。プロダクトから高付加価値サービス化へ変革していくためには、顧客のプロセスを現場で理解し、顧客自身が気付いていない課題を「みえる化」し、最適な解決策を共創することが重要です。そのためこれまでに構築したグローバル開発体制に加え、欧州、米国、日本、アジアの地域特性に応じて顧客と連携するためのローカル開発体制を構築します。

今回のテクノロジーレポートでは、これら3つの柱を中心にその一端を紹介します。レポートの冒頭では、当社画像IoT技術の代表例を“「みせる」を通じた顧客価値の提供”の特集にまとめました。さらにコア技術のデジタルによる再構築や、海外の地域特性に応じた開発の事例もご紹介していきます。

当社は、今後も現在とその先の世界を見すえ、顧客自身も気づかない課題すら可視化し、「みたい」の欲求に応える努力を続けます。メーカーとしての“基盤”である技術資産をDXで最大限に活用し飛躍する事で今を乗り越え、持続的社会的の実現に貢献できると確信しています。